

よりそう



2012.5.18金

第176号
(No.1)

編集責任
知の容器

教育支援活動 (その2)



前回11月に訪ねた陸前高田長部の子どもたちのことが気になっていた。担当のS田さんに頼んで、毎週土曜日に定例で開かれている子ども支援活動に、入れていただいた。マジックカードの紙工作キットの用意があることを告げるとぜひやってほしいと言われ、持って来た甲斐があったと思った。

最近参加する子どもが増え、毎回20人程度だという。ボランティアの分のキットを含め30セットを準備した。まごころネットからは、私を含め8人。そして、合同で開催している地元NPOパクトさんからは担当のS山さんと福島大学から2人が参加した。

長部コミュニティセンターは、長部小学校に隣接して建てられている。その長部小学校では、津波で流されてしまった気仙小学校との合同授業が続いている。運動場には、仮設住宅が建ち並び、子どもたちが思いきり走り回れる場所はまったくない。

活動は、2時からという予定だが、待ちきれない子たちが1時には来ていた。何度か来ている若い男性ボランティアKさんの顔を見つけると、子どもたちは飛びついてはしゃぎだした。会えるのを楽しみにしていたのだろう。

2時まではフリーということで、初めての大人たちは様子を見つつ、話しかけたりして間合いをはかっていく。玄関先にたんぼぼを見つけた私は、「たんぼぼ笛作ろうか」と女の子に声をかけた。「放射能がついてるから、ダメなんだよ」と返され、現実を思い知った。

アレもダメ。コレもダメ。ソレもダメ。の日常を子どもたちは、生きている。

工作会が始まる前に問題が発生したようで、当事者の1年生3人が参加しないままのスタートとなる。工作会は、みな思いおもいの絵を描き、なかなか描けない子には大人が言葉かけなどしてフォローし、それぞれいいカードに仕上がった。予定時間を延長してしまっていたが、1時間椅子に座って集中していたことを担当のS田さんは驚いていた。

子どもたちは、終わるや寸暇を惜しんで、再び走り回り始めた。発散の仕方が無鉄砲で危なっかしい。一步間違えば事故につながりそうな危険さもある。担当のS田さんは4月から、S山さんは今日が初日ということで、抑えがきかない様子だった。様々な事情があつてのことだろうが、子どもたちと長く丁寧に関われる大人が必要だと感じた。

会は4時に終わり、その後大人たちで反省会が開かれた。それぞれが、感想や気になった点を出し合って話し合った。初対面が多い中で、本音が全て出された訳ではないが子どもたちを守りたい、よりよい活動になるようにという温かな想いは同じだった。

反省会が終わって外に出ると、1年生3人がKさんとS田さんに摘んだ花をさし出した。渡そうとずっと待っていたのだ。そして、「さよなら」と言っても車からなかなか離れようとしめない。車が動き出しても追いかけてきて、ずっとずっと手を振り続けていた。

子どもたちのことをずっと考えている。今日参加した大人たちみんなが考えているだろう。子どもたちを満たす手段は、体を動かして発散させることだけではない。静と動のバランスも必要だろうと思う。ボランティアが日常的に関わることはできない。

子どもと子どもをつなげることに意識して取り組み、信頼関係を築かせて子どもの中に自治を作っていくことが必要だと思われる。毎回おたのしみを提供する場にとどまるのではなく、子ども自らがしたいことを実現できるようサポートすることも大事な気がする。

.....次のページ

5/19 (土)
天気 曇り時々晴れ
気温 最高 20℃
最低 11℃
降水確率 10%

5/19 (土) ボランティアミーティングはPM5:10 ~ 男性宿泊棟

5/18 (金) 宿泊: 62名